

平成24年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成23年8月12日

上場会社名 株式会社 大田花き

上場取引所 大

コード番号 7555 URL <http://www.otakaki.co.jp>

代表者 (役職名) 代表執行役社長 (氏名) 磯村 信夫

問合せ先責任者 (役職名) 執行役管理本部長 (氏名) 金子 和彦

TEL 03-3799-5571

四半期報告書提出予定日 平成23年8月15日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第1四半期の業績(平成23年4月1日～平成23年6月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第1四半期	5,820	△6.8	48	△15.0	65	△4.3	38	△4.3
23年3月期第1四半期	6,242	1.6	57	△19.7	68	△20.5	40	△21.7

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第1四半期	7.68	—
23年3月期第1四半期	9.12	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
24年3月期第1四半期	5,884	4,238	72.0	849.99
23年3月期	5,839	4,249	72.8	852.31

(参考) 自己資本 24年3月期第1四半期 4,238百万円 23年3月期 4,249百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	0.00	—	10.00	10.00
24年3月期	—				
24年3月期(予想)		0.00	—	10.00	10.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年3月期の業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、第2四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	12,293	△5.6	68	△37.1	85	△31.4	50	△31.4	10.03
通期	25,902	△0.2	275	24.3	299	21.1	175	20.4	35.10

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

4. その他

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料5ページ「2. サマリー情報(その他)に関する事項」をご覧ください。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

24年3月期1Q	5,500,000 株	23年3月期	5,500,000 株
----------	-------------	--------	-------------

② 期末自己株式数

24年3月期1Q	513,799 株	23年3月期	513,799 株
----------	-----------	--------	-----------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

24年3月期1Q	4,986,201 株	23年3月期1Q	4,389,926 株
----------	-------------	----------	-------------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する定性的情報	2
(2) 財政状態に関する定性的情報	5
(3) 業績予想に関する定性的情報	5
2. サマリー情報（その他）に関する事項	5
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	5
4. 四半期財務諸表	6
(1) 四半期貸借対照表	6
(2) 四半期損益計算書	8
第1四半期累計期間	8
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 継続企業の前提に関する注記	10
(5) セグメント情報等	10
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10
(7) 重要な後発事象	10
5. 補足情報	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する定性的情報

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災による電子部品等の生産ストップからサプライチェーンが寸断され、電子機器や自動車等の輸出にブレーキがかかり、貿易収支は悪化しました。また、東京電力福島第一原子力発電所の事故が原因で、福島県・北関東・千葉県産の農水産物だけでなく、神奈川県や静岡県のお茶からも国の暫定規制値を超える放射性物質が検出され、農水産物の出荷停止や風評被害等が、日本経済だけでなく市民生活においても不安材料として次々と出てきた3ヶ月でした。

花き業界においては、4月、5月は原油高と低温の影響により、ハウス物と露地物は、ともに10日から2週間ほど出荷時期が後ろにずれ込みました。一部作付けを花から野菜にシフトした生産者もいて、地域によってバラつきはあるものの、日本全体では前年比90～95%の生産量となりました。

販売面では、震災直後こそ、水や食料の確保で花どころではないといった店頭の動きでしたが、ゴールデンウィーク直前には消費が少しずつ戻ってきたと実感でき、母の日の需要期には間に合いました。しかし、結婚式は依然自粛で少なく、また原発問題で外国人旅行者などが減少しているためにホテルやレストラン等からの需要が停滞し、高級な切花の単価が振るいませんでした。しかし節電のため、グリーンカーテンを作って夏を乗り切ろうと、ゴーヤやアサガオ等つる性植物が人気となり、苗物だけでなく鉢物の需要全体を押し上げました。

このような状況の中わが社は、第一の購買層として、自粛とはあまり考えない団塊ジュニアを想定し、バラやダリアを中心とする若い世代向けの品揃えにしました。4月はこれらの他、お彼岸にお墓参りに行けなかった方々向けに、仏花の材料を厚くしました。母の日需要期には「つながり」「日本の伝統的文化や慣わし」から、シンプルに赤いカーネーションの切花・鉢物を中心とした品揃えにし、鉢物ではさらにアジサイも加え販売しました。小売の店頭でも本年はカーネーション類の人气が高く、天候異変で輸入品が少なかったこともあって、母の日直前の市までカーネーションの切花・鉢物は高値で取引されました。震災の影響で出足が悪かったため、例年に比べると90～95%の実績となった小売店が多かったものの、生花店が自信を取り戻した平成23年母の日需要期でありました。6月は出荷量がやや少なく、単価が上がって、前年を超える取扱金額となりました。このことは当社が、産地の協力を得て、花の中核市場として役割を果たすことができた結果といえます。

以上の結果、当第1四半期累計期間(平成23年4月～6月)の業績は、売上高5,820,792千円(前年同四半期比6.8%減)となり、内訳をみますと、切花の取扱高5,127,643千円(前年同四半期比7.7%減)、鉢物の取扱高670,264千円(前年同四半期比1.2%増)、付帯業務収益22,885千円(前年同四半期比4.1%減)となりました。利益につきましては、営業利益48,936千円(前年同四半期比15.0%減)、経常利益65,381千円(前年同四半期4.3%減)、四半期純利益38,313千円(前年同四半期4.3%減)と減収減益となりました。

切花、鉢物に関する品目別の概況は次の通りです。

切花

キク類	売上金額	905,135千円(前年同期比14.6%減)
	取扱数量	21,153千本(同0.8%増)

・輪菊では、前年に高騰した白菊が、今年は例年並みかそれを下回る相場で推移しました。これは、周年産地を中心に前年並の安定した入荷量があったにもかかわらず、例年に比べると大きな葬儀が少なく、需要が減少したためです。色菊は作付け量の減少や生育遅れなどによって、4月から5月にかけては、前年をやや下回る入荷量となりましたが、白菊同様、需要が少なかったため、需要に見合った相場展開となりました。

・小菊においても、仏花などの需要が少なく4月、5月と相場が低迷しました。小売などにおいても販売環境は厳しく、そのため産地において、下位等級品を中心に出荷の調整をする動きもありました。6月は産地が切り替わるタイミングで、品薄感があったことから引き合いが強まりました。

・スプレー菊も、前年と同程度の入荷量となりましたが、大きな需要はなく、前年に比べると相場は低迷しました。しかし、5月の後半から6月にかけては、国産品が少なかったことや小菊の品薄感もあり、安定した取引が続き、前年をやや上回る販売金額を達成しました。

洋ラン・バラ・カーネーション	売上金額	1,452,083千円（前年同期比 3.4%減）		
	取扱数量	24,778千本（同 0.7%減）		

・バラは、震災後の4月、計画停電や自粛ムードなどもあり、婚礼やイベント関連でのキャンセルが多く、販売が振るいませんでした。相場も前年に比べると低迷したために、産地サイドとしても、積極的に出荷しようという動きではなく、入荷量も減少しました。5月に入ると、母の日需要に加え、イベント需要なども次第に回復をし、相場も戻り始めたため、前年並の取扱数量、販売金額となりました。6月もブライダル需要はそれほど多くはありませんでしたが、フェアを開催する専門チェーン店などもあり、安定した取引となりました。

・スタンダードタイプのカーネーションのうち、国産品は安定した入荷となりましたが、輸入品においては、震災後の需要を見極めようとする動きもあり、4月の入荷量は減少しました。母の日においては、事前の注文こそ少なめでありましたが、間際になると動きが活発で、そのため価格が上昇しました。母の日の後は、国内の産地が切り替わる時期ではありますが、開花が遅れていた暖地からの出荷が続いていること、夏場の主力産地となる高冷地の商品も出始めたことで、前年を大きく上回る潤沢な入荷となりました。しかし、産地ごとにメリハリの利いた相場となったことで大きく値崩れすることもなく、また、他品目の品薄による代替品としての需要もあり、6月の販売金額は前年を上回りました。スプレータイプのものは仏花として使われる頻度が高いですが、仏花需要が低迷していたため厳しい販売状況でした。

・洋ラン類では、デンファレが天候の影響で入荷量が減少したにもかかわらず、仏花需要の低迷を受け販売が伸び悩みました。6月に入ると入荷量が徐々に増加し、また、イベント需要などが持ち直したこともあり、前年並の取引となりました。オンシジュームも4月は、仏花需要に加え、ブライダル、イベント需要の低迷を受け、高価格帯の品種を中心に販売が振るいませんでした。しかし、5月以降は、少しずつ需要が回復したことで、上位等級品を中心に安定した取引となりました。結果的に会計期間トータルでみると、前年並の取扱数量、販売金額となりました。

球根類	売上金額	829,541千円（前年同期比 7.5%減）		
	取扱数量	10,872千本（同 1.4%増）		

・テッポウユリは前年を上回る入荷量となりました。これは、低温などにより開花が遅れたことで、3月に出荷を予定していたものが4月以降に出荷されたためです。5月以降も冬場の主力産地からの出荷が続く中、夏の主力産地からの出荷が始まったことで、潤沢な入荷となりました。このことに加え、仏花需要が振るわなかったこともあり、相場は低迷しました。オリエンタルユリは前年並の入荷量で、母の日にはピンク系を中心に引き合いがありましたが、自粛ムードの中、目立った需要もなく厳しい販売状況でした。

・アルストロメリアは、前年をやや上回る入荷が続きました。そのため、4月は他品目同様に厳しい販売状況でしたが、母の日需要期にかけてやや上向き、6月を迎えると高冷地からの出荷も始まり、業務需要を中心に白・ピンク系の引き合いが強まりました。

・カラーは、4月は前年を上回る入荷量となったことに、自粛ムードが相まって厳しい販売となりました。5月から6月にかけては、やや数量が不足したため、母の日やブライダル関連の需要により堅調な取引となりました。また販売促進として、専門チェーン店でフェア開催を提案するなどしたことも、安定した取引へ繋がりました。

・季節商材では、スズランが、5月1日の「スズランの日」前後にフェアを開催する小売りも多く、年々取扱が増えています。本年においても入荷量、販売金額ともに増加しました。端午の節句には、花菖蒲の需要も増えますが、前年を下回る入荷量となったことで引き合いが強くなり、安定した取引となりました。

草花類	売上金額	1,339,646千円 (前年同期比 8.7%減)
	取扱数量	27,850千本 (同 6.5%減)

・トルコギキョウは生育期の低温が影響し、各産地とも開花の遅れから期間を通して入荷量がやや減少しました。販売面では、震災後の自粛ムードなどが残る4月には、相場は低迷しましたが、5月の母の日では、活発な取引となりました。それ以降は、夏に向けて今年度の出荷が始まった高冷地のものは堅調な取引となり、メリハリの利いた相場展開となりました。ブライダル需要においては、大輪系に人気が集まる傾向にあります。

・カスミソウも、6月になると夏にかけての主力産地である高冷地からの出荷が増えますが、冷え込みの影響に加え、震災のため作付け時期が遅れるなどした産地もあり、供給量が不足、葬儀需要などを中心に引き合いが強まりました。

・ガーベラも4月は他品目同様、厳しい販売状況でした。しかし4月18日の「ガーベラの日」には仲卸や量販店などでフェアを開催するところもあり、受注が増えました。母の日にもピンク系を中心に安定した取引となりました。母の日以降は改植時期であることや天候の影響から入荷量が減少、小売向けの販売は厳しい状況でしたが、ブライダルなど業務向けは安定した価格での取引となりました。

・季節商材では、シャクヤクが、露地物の出荷時期にやや遅れが見られました。加えて、季節商材として人気が高いことから堅調な取引となりました。デルフィニュームは、高冷産地で開花が大幅に遅れたため品薄となり、ブライダル需要を中心に引き合いが強まりました。ヒマワリは初夏の季節商材として、また、父の日の定番アイテムとして、需要が活発でした。前年に比べるとやや作付け量も少なかったため、引き合いが強く、本格的な夏を前に堅調な取引となりました。

枝物・葉物	売上金額	601,236千円 (前年同期比 4.6%減)
	取扱数量	13,299千本 (同 5.2%減)

・葉物は、震災間もない頃に、相場が不安定だったこともあり、輸入品を中心に出荷を見極めようとする動きもあり、入荷量が減少しました。5月以降は需要が少しずつ戻ってきたこともあり、前年並の入荷量となりました。6月には梅雨前線や台風により、降雨量が例年以上であったことが原因で、国内の主力産地からの入荷が減少するなどしたため、品薄感から安定した取引となりました。

・枝物は4月、ヒペリカムなどの輸入品が葉物同様、震災後の不安定な相場のために入荷量が減少しました。また春先の低温、冷え込みといった天候の影響で、季節商材などには出荷が遅れるものもあり、全体的にやや少なめの入荷量となりました。そのため品薄感から安定した取引となりました。

鉢物

鉢物	売上金額	670,264千円 (前年同期比 1.2%増)
	取扱数量	3,282千鉢 (同 1.8%増)

・洋ラン類は、年度初めや6月後半の叙勲、株主総会といった一部の需要以外には目立った動きがありませんでした。主力であるファレノは、生産減少もあり、相場こそ前年を上回りましたが、数量減をカバーできるほどではありませんでした。

・花鉢では、カーネーションやアジサイといった母の日ギフト商材が、切花同様、事前の予約販売やカタログ販売などが振るわず、受注量は減少しました。しかし、間際の駆け込み需要は旺盛で、母の日前日まで強めの相場となりました。

・大鉢を中心に販売が低迷していた観葉植物ですが、品揃えの強化に取組み、また、フェアを開催するなどしたことで、前年を上回る販売金額となりました。

・天候が穏やかだったこともあり、4月から5月にかけては、ガーデニング需要や花壇等の植え込み需要が活発で、苗物類の入荷量、販売金額はともに増加しました。また節電による影響から、今年は特にゴーヤなどのグリーンカーテン関連の商材への注目が高まったことで、これらを中心に堅調な取引となりました。

(2) 財政状態に関する定性的情報

当第1四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末と比較して44,335千円増加し、5,884,178千円となりました。その主な内訳は資産につきましては、現金及び預金の増加144,637千円、売掛金の増加123,063千円、有価証券の減少100,000千円であります。

負債につきましては、前事業年度末と比較して55,884千円増加し、1,645,945千円となりました。その主な内訳は、受託販売未払金の増加32,287千円であります。

純資産につきましては、前事業年度末と比較して11,548千円減少し、4,238,233千円となりました。これは利益剰余金が11,548千円減少したことによるものであります。

(キャッシュ・フローの状況)

当第1四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は以下のとおりであります。

営業活動によるキャッシュ・フローは、売上債権の増加等により減少した資金は51,860千円（前年同四半期は増加した資金131,966千円）となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、収入面では定期預金の払戻による収入100,000千円、有価証券の売却による収入100,000千円等、支出面では定期預金の預入による支出100,000千円等により増加した資金は106,469千円（前年同四半期比727.8%増）となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払等により減少した資金は9,972千円（前年同四半期は増加した資金623,752千円）となりました。

この結果、当第1四半期会計期間末の現金及び現金同等物の残高は、前事業年度末より44,637千円増加し、2,466,331千円となっております。

(3) 業績予想に関する定性的情報

平成23年5月13日に公表いたしました業績予想から修正は行っておりません。

2. サマリー情報（その他）に関する事項

(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用

①簡便な会計処理

税金費用については、当第1四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は「法人税等」に含めて表示しております。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

4. 四半期財務諸表
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年 3 月31日)	当第1四半期会計期間 (平成23年 6 月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,421,694	2,566,331
売掛金	1,107,058	1,230,121
その他	272,284	179,418
流動資産合計	3,801,036	3,975,872
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	164,825	161,320
工具、器具及び備品（純額）	202,700	188,917
その他（純額）	125,167	132,063
有形固定資産合計	492,693	482,301
無形固定資産	67,603	60,313
投資その他の資産		
関係会社株式	603,735	603,735
長期前払費用	189,715	184,088
その他	727,551	620,323
貸倒引当金	△4,892	△4,856
投資損失引当金	△37,600	△37,600
投資その他の資産合計	1,478,508	1,365,691
固定資産合計	2,038,806	1,908,306
資産合計	5,839,842	5,884,178
負債の部		
流動負債		
受託販売未払金	815,942	848,230
買掛金	21,728	20,746
未払法人税等	46,290	29,568
賞与引当金	30,010	42,432
その他	187,014	202,255
流動負債合計	1,100,985	1,143,232
固定負債		
退職給付引当金	160,863	167,913
その他	328,212	334,799
固定負債合計	489,075	502,712
負債合計	1,590,061	1,645,945

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期会計期間 (平成23年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	551,500	551,500
資本剰余金	401,187	401,187
利益剰余金	3,733,827	3,722,279
自己株式	△436,733	△436,733
株主資本合計	4,249,781	4,238,233
純資産合計	4,249,781	4,238,233
負債純資産合計	5,839,842	5,884,178

(2) 四半期損益計算書
(第1四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)
売上高	6,242,554	5,820,792
売上原価	5,630,992	5,251,540
売上総利益	611,561	569,252
販売費及び一般管理費	553,977	520,315
営業利益	57,583	48,936
営業外収益		
受取利息	819	1,238
受取配当金	6,275	10,500
その他	3,661	4,707
営業外収益合計	10,755	16,445
経常利益	68,338	65,381
特別損失		
リース解約損	107	—
特別損失合計	107	—
税引前四半期純利益	68,231	65,381
法人税等	28,179	27,068
四半期純利益	40,052	38,313

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	68,231	65,381
減価償却費	46,114	34,603
賞与引当金の増減額(△は減少)	13,323	12,422
退職給付引当金の増減額(△は減少)	7,380	7,050
貸倒引当金の増減額(△は減少)	2,458	△36
受取利息及び受取配当金	△7,094	△11,738
売上債権の増減額(△は増加)	646,872	△123,308
仕入債務の増減額(△は減少)	△507,415	32,731
未収入金の増減額(△は増加)	387	154
未払費用の増減額(△は減少)	△3,175	643
未払金の増減額(△は減少)	△18,988	△32,576
未払消費税等の増減額(△は減少)	3,853	4,646
その他	△9,979	△12,220
小計	241,967	△22,245
利息及び配当金の受取額	7,205	11,836
法人税等の支払額	△117,206	△41,450
営業活動によるキャッシュ・フロー	131,966	△51,860
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	—	△100,000
定期預金の払戻による収入	—	100,000
有価証券の売却による収入	—	100,000
有形固定資産の取得による支出	△400	△10,539
無形固定資産の取得による支出	△1,650	△1,310
貸付金の回収による収入	14,911	18,318
投資活動によるキャッシュ・フロー	12,861	106,469
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	△860	—
自己株式の売却による収入	635,644	—
配当金の支払額	△7,631	△6,581
リース債務の返済による支出	△3,399	△3,390
財務活動によるキャッシュ・フロー	623,752	△9,972
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	768,580	44,637
現金及び現金同等物の期首残高	1,825,402	2,421,694
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,593,982	2,466,331

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

当社は、花き卸売事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(7) 重要な後発事象

該当事項はありません。

5. 補足情報

品目別売上高

当第1四半期累計期間の販売実績を取扱品目別に示すと、次のとおりであります。

品目	当第1四半期累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)	前年同期比 (%)
受託品 (千円)	5,747,879	93.40
キク類 (千円)	894,367	85.55
洋ラン、バラ、カーネーション (千円)	1,449,517	96.96
球根類 (千円)	829,385	92.53
草花類 (千円)	1,338,762	91.30
枝物・葉物 (千円)	586,362	95.67
鉢物 (千円)	649,484	101.75
買付品 (千円)	50,028	77.49
キク類 (千円)	10,767	
洋ラン、バラ、カーネーション (千円)	2,565	
球根類 (千円)	156	
草花類 (千円)	884	
枝物・葉物 (千円)	14,874	
鉢物 (千円)	20,780	
合計 (千円)	5,797,907	93.23

(注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2. 上記の金額には、卸売業務に係る付帯業務収益(当第1四半期累計期間22,885千円)は含まれておりません。